



法の光 (法光山 妙勝寺 通信)

No.266

2022年(令和4年) 2月 1日発行

文責 大岩 清人

— 除夜の鐘 —

妙勝寺ホームページ

<http://www.myosyoji.net/> 又は「法光山 妙勝寺」で検索

令和4年の節分と星祭り

今年は2月3日が節分・星祭りです。星祭り祈願祭を15時より妙見堂にて行います。ご希望の方はお参り下さい。

星祭りのお札を希望されているお家に2月4日にお配り・発送する予定です。

「今日で最後にするわ」

度々書かせてもらった焼き芋屋のおじさんが決断された。「今日で最後にするわ」が突然やって来た。「今年は止めようと考えとったけど、みんなが来い言うてくれるでし始めたけど、もう止める。いつかは止めにやいかんでな。」と美作訛りの早口で終わりを告げた。

「そうか～今シーズンは楽しませてもらえと思とったけど、今日で終わるか～残念やな。」何が急に終わりを決断させたのか…聞き出せなかったが、何回となく「いつかは止めにやいかんでな」と繰り返すおじさんに「そやな。そやな。」としか言えなかった。いつもより沢山買い求め帰ろうとすると後から鼻歌が聞こえてきた。これまでは「またお願いするわ」で別れたが、最後はおじさんの鼻歌だった。焼き芋は冷凍保存して少しずつお茶の共にする。

寒さが身にしみる

お正月に子供達が帰省し、賑やかな空気であたたかく感じた。正月明けに徐々に子供達が戻っていった。元の二人の静けさに…。と同時に家の中が寒く感じる。広いお寺の中を外着の防寒具を着て歩く。人数が多いのは賑やかさと共に暖かさもあるな～と身震いした。それにしても今年は雪が多い。幸い山崎は屋根や木々に積もる程度で済んでいる。戸倉スキー場や千種スキー場は近年まれに見る積雪に関係者は胸をなで下ろされているだろう。スキーに行こうと準備すると用事が入る。まだ初滑りが出来ていない。

2月の日程

2月3日(木)

15:00より

星祭り祈願祭

妙見堂

令和3年大晦日

寒波襲来。夕方から舞い始めた雪が徐々に白い世界に変えていった。

「雪降りやし寒いな～撞きに来てくれるかな～」と準備にかかる。

撞き始める頃は雪が増した。家族連れが入ってこられた。「姫路から撞きに来ました。」「ありがとうございます。撞かれたら姫路へ」「はい」撞き初めの時間が来て会話は終わった。雪の中次々に来られた。撞き初めをして本堂で新年祝しゆく会のお経をあげ、本堂から下がるとまだ撞きに来られている。

「今年はこれまでの中で一番多かったかな～108どころやないわ・・」と。コロナ禍の不自由な思いを除夜の鐘に託されたのだろう。

「最高の人生の見つけ方」

私の好きなアメリカ映画の一つである。ジャック・ニコルソン演じる白人の大金持ちエドワードとモーガン・フリーマン演じる自動車整備工の黒人カーターが癌を患い同じ病室で出会い、共に余命少なしと宣告される。宣告前にカーターがし残したことを紙に書いていた。その紙をエドワードは見つける。「荘厳な景色を見る」「赤の他人に親切にする」「涙が出るほど笑う」…と書かれていた。死の宣告をされた二人は相談し、エドワードがしたいことを付け加え、残された時間を旅にでる。

アフリカのサファリやピラミッド、インドのタージマハルでリストアップされた項目を一つずつ消していく。香港のホテルに滞在している時にカーターが突然「帰る」とアメリカへ飛んだ。温かく迎える家族の下に帰ったカーター。楽しい家族の姿に最大の喜びを感じるのだが、その夜寝室で倒れた。病院に担ぎ込まれて気がついた所にエドワードが訪ねそこで一枚の紙を手渡す。そこにはエドワードが好きだったコーヒー豆は動物の糞から集められた事が記されていました。「お前の好きなコーヒーは猫の糞だ。」に二人は腹を抱えて大笑いするのです。「涙が出るほど笑う」をカーターは線を引くのです。カーターの緊急手術が行われたのだが帰らぬ人となった。葬儀の席でエドワードは「彼と会ったこの3ヶ月が人生で最高の日々だった。」と胸を詰まらせながら話すのです。一方、豪華なマンションに帰ったエドワードは一人淋しく過ごすのだが、思い立ったように疎遠だった娘に会いに出かけます。そして、初めて会う孫娘を抱き上げほおにキスをしたのです。エドワードが付け足した「世界一の美女にキスをする」が消されました。二人の遺骨はエベレストの山頂に運ばれ葬られます。「荘厳な景色を見る」が実現するのです。

人生で何を大切に生きるか…一言一言が奥深い映画です。

鬼平死ス（中村吉右衛門さん逝去）



前にも書きましたが、中村吉右衛門さんは時代劇『鬼平犯科帳』の火付け盗賊改め長谷川平蔵役を長年演じられました。勸善懲悪の裁きの中にも人情味ある所に多くのファンがいます。江戸時代の時代考証でその立ち居振る舞いや日常の所作など粋な侍を演じました。着流しでたばこ盆を片手にキセルタバコを吸うのも様になり、話し言葉も江戸っ子の切れの良さがしみ出ていました。

イギリスのコナンドイル作、『シャーロックホームズ』をTV でやっていることがあります。ワトソン君と難問を解決します。作品によって服装は違いますが、端正な身なりに帽子をかぶりパイプタバコをくゆらせるのは共通です。

長谷川平蔵はキセル、シャーロックホームズはパイプが場を演出しています。タバコは嗜好品の一つですが、他にコーヒー・紅茶・アルコールなどがあります。嗜好品は生活を楽しむスパイスひととき（薬味）であり一服です。コーヒー・紅茶は午後の合間の素晴らしい一時です。バーのカウンターに一人座おっってウイスキーを飲む時間や居酒屋で杯に熱燗を注ぎながら場を楽しむのも乙な一時です。タバコもしばしの間をつくります。

禁煙が劇の内容を変えて行くでしょう。
タバコのシーン「ハイ。カット。」

長谷川平蔵が思案をして結論を出した時、キセルの雁首をたばこ盆の竹筒に、カンと音を立てて灰を落とす演出はなくなるのです。役者は死ぬまで精進と言われていた吉右衛門さんの日常も演技そのものだったに違いありません。



情にも色々

人間誰も心はあるがその中身には色々ある。「あの人は情が深いな～。情あつに篤いな～。」という人もいれば、「薄情やな～。」と思う人もいる。長谷川平蔵も大岡越前も情に篤い役人で人気がある。現代は法律・規則に縛られ情に流されない社会になっている。ギスギスした社会である。自分を省みた時、自分は厚情なのか薄情なのかひと・自己評価は難しい。他人様はどう見ているのだろう。

雪国

新潟県の豪雪地帯の古民家をリフォームして東京から移住されたご婦人が居ます。出版社の編集員を務め、仕事づくめの生活をされていた方が、自然の中で自分の生活をされています。

「毎日する事があって退屈しないわ」と手を動かしながら話されます。取材されている時期は雪積もる冬。朝起きてストーブに火を入れておいて、玄関から道路までの道をつけ(除雪が出来る量ではなく踏みつけて道を作る)、それが終わると暖まった食堂で朝餉あさげを作る。「雪を見ているとあたたかいの..毎日窓越しの雪景色は変わって行くのよ。あきないわよ。」と自然を楽しまれている。

都会では「今日は〇〇の習い事、明日は友達と映画を見てお茶かな～」と予定を立てる。

田舎では生きる事がすべきことである。坦々と過ごす日々に暇な時間はないという。「ケーキやお菓子を売っているお店は近くに無いの。自分で作るのよ。今から表の道で拾ったクルミでクッキーを作るわ。」と自家製のおやつに精を出された。「今日は水働き用のエプロンを作る。」とミシンの前に坐られた。言わば自給自足生活である。

今日は何をしようかな～と思案するということは、自分で作らずに買い求めるからということになる。お菓子もエプロンもすぐ手に入るからだ。買わずに自分で作る..これが自分のために生きる事なんだな～。

建物探訪 ー心引かれた玄関ー

玄関戸を開けるとゆったりとした空間。奥の吹き抜け天窓から格子を通して緩やかな光が差し込み観世音菩薩の絵を浮かび上がらせている。左側には大きさが2メートル四方もあろうか、水がしぶきを上げて落ちる絵はそこに瀑布を作り上げている。この大作を納めるためにこの空間かまちが生まれたのだろうか..心を奪われた。玄関が広く取られ低い上がりかまち 框から板張りで、敷物が奥半分かまちに敷かれ、大きめの飾り棚が右奥に、小物が正面に数点配されている。小物も凝っている。手前両脇に佛の脇侍わきじの如く、小さな椅子が2脚こちら向きに置かれている。落ち着いた色調の玄関に彩りを添えるクッションが添えられている。この空間はまるで美術館であり、角度を変えると佛の間を家の顔として玄関に再現されている。ここまで計算された玄関は初めてである。玄関から右に入る板戸を開けると、通り抜きの廊下があり、土壁にアーチの入り口が切られている。その襖戸を開けると祭壇が組まれ故人のご遺体が安置してあった。